

公益社団法人 日本水産学会
令和 6 年度第 5 回理事会議事録

1 開催された日時 令和 6 年 9 月 21 日（土）13 時 00 分～14 時 47 分

2 開催された場所 日本水産学会事務局（東京都港区港南 4-5-7）

3 理事総数及び定足数

総数 17 名、定足数 9 名

4 出席理事総数 14 名

（Web 会議システムによる出席）

東海 正、大越和加、征矢野 清、河村知彦、片山知史、阪倉良孝、
栗田 豊、岡田 茂、都木靖彰、平井俊朗、河村功一、益田玲爾（第
6 号議案審議中 13 時 47 分から 13 時 49 分まで退席）、足立真佐雄、荒
川 修

5 出席監事

（Web 会議システムによる出席）

佐藤秀一、野澤知世

6 出席幹事

（Web 会議システムによる出席）

二羽恭介、山本洋嗣、森田哲朗

7 オブザーバー

（Web 会議システムによる出席）

木村 稔（会長指名理事候補者）、古川史也（会長指名理事候補者、報
告事項中 14 時 42 分退席）、天野勝文（令和 7 年度春季大会委員長、
第 2 号議案終了後 13 時 9 分退席）

8 議 案

決議事項

- | | |
|---------|---|
| 第 1 号議案 | 「令和 7 年度春季大会業務委託業者」の件 |
| 第 2 号議案 | 「令和 7 年度春季大会募金目論見書」の件 |
| 第 3 号議案 | 「国際交流委員会運営規程の一部改正及び優れた若手研究者の
国際学会発表支援に関する申し合わせの制定」の件 |
| 第 4 号議案 | 「研究成果オープンアクセス化への対応委員会（特別委員会）
の解散および FS 誌 OA 検討委員会（特別委員会）の設置」の件 |
| 第 5 号議案 | 「名誉会員 橋本周久先生の追悼文」の件 |
| 第 6 号議案 | 「2025 年度日本農学賞の推薦」の件 |
| 第 7 号議案 | 「入会承認」の件 |

報告事項

- ① 第 4 回理事会以降の職務遂行の状況
- ② その他確認事項

9 議事の経過及びその結果

（1）定足数の確認等

東海会長が定足数の充足及び Web 会議用装置からなる Web 会議システムによ
り、出席者の音声、映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するの
と同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。

続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款第 29 条に基づき、東海会長が議長となり、本会議の成立及び Web 会議システムを用いて開催する旨宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

第 1 号議案 「令和 7 年度春季大会業務委託業者」の件

東海会長の求めにより、天野令和 7 年度春季大会委員長から、複数の業者からの見積書とともに原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 2 号議案 「令和 7 年度春季大会募金目論見書」の件

東海会長の求めにより、天野令和 7 年度春季大会委員長から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

東海会長より、寄附金の振込先がネットバンクとなっていることが紹介された。

第 3 号議案 「国際交流委員会運営規程の一部改正及び優れた若手研究者の国際学会発表支援に関する申し合わせの制定」の件

益田担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。本件は以下の通り、補足説明がなされた。

古川理事候補「旅費等への支援とした場合に、所属先からの経費支給と二重の支払いにならないように、次年度の国際学会の参加費をサポートする形にするなどの工夫が必要である。」

東海会長「若手の会と国際交流委員会が中心となって、申し合わせや規程を作成してもらった。この方針に従い、適切に運用してもらいたい。」

第 4 号議案 「研究成果オープンアクセス化への対応委員会（特別委員会）の解散および FS 誌 OA 検討委員会（特別委員会）の設置」の件

岡田編集担当理事から、政府による研究成果の即時オープンアクセス化（OA 化）の実現に向けた基本方針の改正案とともに Fisheries Science 誌（FS 誌）が対応可能であること、ならびに FS 誌の OA 化の将来的な必要性についての説明の後、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 5 号議案 「名誉会員 橋本周久先生の追悼文」の件

片山総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、追悼文を一部修正のうえ、原案を出席理事全員一致で可決した。

第 6 号議案 「2025 年度日本農学賞の推薦」の件

東海会長および片山総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 7 号議案 「入会承認」の件

片山総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

(報告事項)

① 第 4 回理事会以降の職務執行状況

・会長

東海会長から、以下の報告があった。

1) 水産学会がこれまで取り扱ってきた印刷物に関し、著作権の帰属や転載方法

などその取り扱いを今後整理する必要がある。

- 2) 水産学会も加入する水産・海洋科学研究連絡協議会を通じてサポートレターをだして文部科学省のロードマップ 2023 に採択された「統合全球海洋観測システム OneArgo の構築と海洋融合研究の推進」について、9 月 20 日にシンポジウムが開催され、声明を発することが検討されている。

・庶務関係

片山担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 令和 7 年度会長指名理事候補者に対する支部幹事による意向投票結果について、以下 3 名の理事候補者選出が報告された。
木村 稔 元 北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験場 場長
古川史也 北里大学海洋生命科学部 講師
マーシー・ニコル・ワイルダー 国際農林水産業研究センター プロジェクトリーダー
- 2) 令和 7・8 年度学会賞選考委員会委員選挙の開票結果について報告があった。
- 3) 協賛及び後援について、次の 2 件に対して共催、協賛、後援の取り扱い申し合わせ 3) を適用した。

① 第 12 回海中海底工学フォーラム・ZERO Hybrid

主 催 海中海底工学フォーラム・ZERO 運営委員会
協 賛 日本船舶海洋工学会 他 7 団体
日 程 令和 6 年 10 月 11 日
場 所 東京大学大気海洋研究所講堂（千葉県柏市）
希 望 協賛
負担金 なし

② 第 62 回アイソトープ・放射線研究発表会

主 催 日本アイソトープ協会
後 援 応用物理学会 他 67 学協会（予定）
日 程 令和 7 年 7 月
場 所 日本科学未来館（東京都江東区）
希 望 後援
負担金 なし

・企画広報関係

片山担当理事から、令和 6 年 9 月 4 日に令和 6 年度第 4 回企画広報委員会を開催した旨の報告があった。

・財務関係

河村知彦担当理事 特になし。

・編集関係

岡田担当理事から、第 3 回編集委員会がメール審議により開催され、養殖分野で、熱帯地方の養殖事情に詳しい海外編集委員の必要性が編集委員会で議論されていたことから、Dr. Krishna R. Salin（現 Asian Institute of Technology 准教授、インド国籍）が松石委員長から推薦され、承認された旨の報告があった。

・学会賞関係

益田担当理事から、学会賞選考委員会が開催されたことが報告された。学会賞等の選考結果の詳細は次回の理事会で報告予定である。

・シンポジウム関係

征矢野担当理事 特になし。

- ・ 出版関係

平井担当理事から、以下の報告があった。

- 1) e-水産学シリーズ第 7 巻「船底や漁網に使用されている防汚剤の変遷と生物影響」が 8 月 30 日 に出版され、日本水産学会誌に書評が掲載される予定である。
- 2) e-水産学シリーズ第 8 巻「水産科学と水産政策（仮）」については、査読中である。

- ・ 水産技術誌監修関係

河村（知）担当理事 特になし。

- ・ 国際交流関係

益田担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 学会から海外へ派遣した際、また研究者を受け入れる際の予算が非常に厳しい。
- 2) 大会で開催されている SDGs セッションについて、別枠での開催のような形になっていることから聴講数が少なく、他の枠と同等に扱ってほしいという要望がある。

上記内容について東海会長より以下の通り意見が出された。

東海会長「予算については、財務検討委員会の中で検討したい。また SDGs セッションについては、アメリカ水産学会はじめ海外の方をどのように SDGs セッションの中で受けるかを検討してほしい。」

- ・ 水産教育関係

荒川担当理事から、9 月 24 日に第 2 回水産教育推進委員会が開催予定である旨が報告された。

- ・ 水産政策関係

栗田担当理事から、現在メール会議が進行中である旨が報告された。

- ・ 漁業・資源管理関係

栗田担当理事から、今後メール会議が開催される予定であること、また漁業懇話会報の著作権の取り扱いについて検討している旨が報告された。

- ・ 水産利用関係

岡田担当理事から、令和 6 年 10 月 4 日に第 1 回講演会「アニサキス ―その生態と危害防止―」が東京海洋大学品川キャンパス白鷹館にて開催予定である旨の報告があった。

- ・ 水産増殖関係

阪倉担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 9 月 24 日に委員会を開催する予定である。
- 2) 秋季大会中にミニシンポジウム「関西圏の増養殖のホットトピックス」が開催予定となっている。

- ・ 水圏環境関係

大越担当理事から、9 月 27 日に水圏環境保全委員会と同日に「琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化：瀬戸内海と比較して考える」を開催予定である旨の報告があった。

- ・ 男女共同参画関係

大越担当理事から、9 月 26 日に秋季大会においてランチョンセミナーを開催予定である旨の報告があった。

- ・ 水産学若手の会関係

東海会長から、秋季大会の準備が順調に進んでいる旨の報告があった。

- ・ 社会連携関係

東海会長から、11月7日開催の全国水産試験場長会全国大会への参加について調整したい旨の報告があった。

- ・ 将来計画関係

征矢野担当理事 特になし。

- ・ 北海道支部、地域連携関係

都木担当理事 特になし。

- ・ 東北支部、地域連携関係

平井担当理事から、以下の報告があった。

1) 10月19日・20日に秋田市で支部大会を開催予定である。

2) 10月25日に宮城県水産高等学校にて全国水産海洋高等学校生徒研究発表会が開催されることから、支部長が審査員として参加し、支部長奨励賞を授与する予定である。

- ・ 関東支部、地域連携関係

東海会長 特になし。

- ・ 中部支部、地域連携関係

河村（功）担当理事から、支部大会を令和6年12月14日に三重大学にて開催する旨の報告があった。今後学会のHPに掲載依頼をだす予定である。

- ・ 近畿支部、地域連携関係

益田担当理事から、秋季大会が京都大学農学部で開催されること、高校生発表が盛況で申込数が多いことなど報告があった。

- ・ 中国・四国支部、地域連携関係

足立担当理事から、11月30日～12月1日に高知大学朝倉キャンパスにて、中国・四国支部例会を開催予定である旨の報告があった。

- ・ 九州支部、地域連携関係

荒川担当理事から、12月14日に支部大会、15日に支部例会を開催予定である旨の報告があった。

- ・ 英文書籍監修委員会（特別委員会）

坂倉担当理事から、長崎大学の征矢野先生と福山大学の有瀧先生の企画が進行中であり、特に有瀧先生の企画については大枠が提案され、英文の企画書提出を待っている状態となっている旨の報告があった。

- ・ 財務検討委員会（特別委員会）

河村（知）担当理事 特になし。

- ・ 研究成果オープンアクセス化への対応委員会（特別委員会）

岡田担当理事 特になし。

- ・ 法人の体制見直し委員会（特別委員会）

東海会長から、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行令の一部改正に伴い、外部理事の導入や会計関係の取り扱いなど、現在進めている代議員制にあわせて定款や規程の改正に取り組む必要がある旨の報告があった。

本件について以下の通り、征矢野理事より意見が出された。

征矢野理事「代議員制について、前回代議員でない会員が発言できる場を確保するということが重要だという意見があったが、司法書士に確認したところ、代議員以外が代議員会に参加するのは、代議員制の趣

旨に反するため難しいとのコメントがあった。吉崎理事とも話をしたが、そもそも会員に代議制を導入すべきかどうか説明し、賛否を問うべきではないか。」

東海会長「会員への説明は必要であるので、今後総会前の春季大会などで説明会を実施したい。」

② その他確認事項

(1) 次回の理事会について

片山総務担当理事から、次回の理事会は令和 6 年 12 月 7 日（土）13 時から Web 会議システムにて開催するとの説明があった。

以上をもって Web 会議システムを用いた会議は、終始異状なく議案の審議等を終了したので、14 時 47 分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

令和 6 年 9 月 21 日

公益社団法人 日本水産学会
議長 会長（代表理事）

監 事

監 事